



国道381号沿いにある南川口から井細川に沿って入る。県道は小味野々川口線といい、元々は上流にある折合の国有林から木材搬出するためのトロッコ軌道だった。トロッコの最後尾は客車仕立になっていて、誰でも乗ることができた。井細川の水は清く、S字に大きく蛇行しているため、川幅は広い。地区は上中下と分かれています。常会が1つで、31世帯の暮らす里。

まずは氏神様にご挨拶。神様は集会所の中に居る。一角が仕切られていて、右から観音堂、河内神社、八坂神社が祀られており、別々に鎮座していた神様をここに合祀している。観音様は子安の観音と親しまれ、安産・子授け・預かりの願いを聞いてくれるという。「安産、子授かりはわかるけど、預かりは？」「もうええばあ子どもをこしらえたから、後は観音様、預かってください、という事よ」そこまで面倒をみってくれる観音様なのか・・・。大祭日は3月18日で、昔は寺野から雨戸がなくなつたそう。屋台、出店に使われ大変な賑わいをみせた。「八坂神社は？」「八坂神社は病氣治癒の神様で、明治時代、流行病が発生して京都から迎えて来た」とのこと。



じくの木



花咲くコブシ

境内には、じくの木と銀木犀が。じくの木とは珍しい。お正月の羽子板での羽根つき、カチン、コチンと小気味よい音がする。あれは羽根に付いているじくの。実によるものだ。境内ではないが、この地にはもう1本大木がある。高橋家の「コブシ」である。この地区も猪、鹿には悩まされてはいるが、ここも同じで、鹿は飼っているようなもの。なにせ地名に秋鹿山、秋鹿谷がある。「この地区は仲がえいぞね」集会所建替のための積み立てや、地区道を良くするための土地の提供など。井細川の左岸には、林道が出来ているが、土地は無償提供である。どこの地区も過疎は否めないが、ここには跡取り、若者が多くいる。子安の観音様の御利益だろうか。

整備された田んぼには主にヒノヒカリ、にこまる、十和錦が植えられ、予定で、まさに若いしの活躍を期待する新緑の季節である。

(3月31日)				適正値(mg/l)			
人口		前月比	出生 死亡 転入 転出		リン酸		2月16日
町のうごき	男	9,057	-75	男 3 14 34 98	四万十川の 水質状況	5.0	測定値以下
	女	10,160	-48	女 3 15 38 74		硝酸	0.5 1.118
	計	19,217	-123	計 6 29 72 172		アンモニウム	5.0 測定値以下
世帯数		8,744	-25	(3月中の届出)		アニオン活性剤	1.0 0.650
						化学的酸素消費量	10.0 2.163

調査：大正(吾川)
資料：四万十高校自然環境部

● 四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/> ●

広報『四万十町通信』はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)